

素材広場 最終報告

6期 ニックネーム こなん
2011年3月6日(日)
～5月6日(金)
発表日：9月2日(金)

研修の目的

- 研修に参加したきっかけは、仙台アエルで開催された講演会、大学の授業での横田さんのお話を聞いて、身近な福島県、会津若松市について知りたいと思ったからです。特に宿のおもてなしについては他の仕事をする上でもとても大事だと感じたので、素材広場さんの下で勉強したいと思いました。
- 目的は伝統文化に学び、今に生かしたいからです。食材や工芸品など、会津特有（昔ながら）のものを商品開発、歴史を吸収することで学び、さらに今に生かすということがこの会津でやりたいことだからです。さらに商店街作りにも興味があるので街をたくさん見たいです。
- 伝統文化・・・会津木綿　　絵ろうそく　　七日町通り
- 商品開発・・・食材の開発



喜多方モニターツアー 3月6日(日)・3月7日(月)



喜多方モニターツアーでは、水をキーワードとして宿と農家さんのつながり、酒蔵と宿のつながりを見ることができました。酒蔵では、熱燗と冷酒、何種類かの飲み比べの試飲は初めての試みだそうです。お客様も満足な様子でした。

- 一日目【3月6日】
- 喜多の華酒造見学をしました。蔵全体が日本酒のにおいが充満していました。発酵の仕組みや日本酒とワインの違いなどを知りました。日本酒のほうがじっくり発酵させるのに対し、ワインはぶどうをいっきに釜に入れすぐ熟成させるのが違いです。酒造では、お客様は弥右衛門、明日の日本を考える、熱燗、冷酒など試飲していました。



宿～山形屋さん～

- 研修は講演会の手伝いとお客様への夕食のおもてなしを行いました。講演会では、地元の農家さんのお話で、カメラ撮影を中心に活動しました。
- 夕食のおもてなしはご夫婦2組のお酒注ぎを担当させていただきました。地元の食材で、伝統的な料理、創作料理が並びました。お話を聞いているとモニターツアーは旅に慣れていらっしゃるお客様が多いように感じ、お客様へのおもてなしをするということは自分の気づきの学びにつながることができました。

3月7日(月)2日目

- 有機農業を行っているSさん宅に訪問しました。
- 手作りしみもちおかきとほうれん草のおひたしをいただきました。学校給食にも出している有機野菜は味に力があるように感じました。
- 喜多方の探訪では、蔵めぐりを街のガイドさんに説明してもらいながら歩きました。喜多方の蔵にはたくさんの種類があり、昔の冷蔵庫、物置の役割を果たしていたそうです。漢字工房の先生の話では、名前で人格が決まると言います。ちなみにわたしの名前は、常に笑っている(微笑む)子のような名前です。笑い方を上品に変えようと思えます。



3月11日(金)

- 東北関東大震災。PM2:46...
- 素材広場の事務所で5期の最終報告会中に地震が起きました。ここは震度5弱でした。自宅がある仙台市は6弱...
- 不安だった点
 - ・ 家族と別に暮らしていたこと（無事かどうか）
 - ・ 友人の状況
- 地震に慣れていると思っていたのに、現実の地震は様々なものを奪っていきました。人、建物、思い出など人の力ではどうすることもできない、自然の力の偉大さを思い知る結果になりました。

被災地支援プロジェクト (元気玉プロジェクト) 結成

- 地域インターンシップでお世話になっているNPO法人素材広場さんの人脈により、NPOをはじめとする4社、福島県会津地方災害対策本部、会津短大食物栄養学科が連携し、全国からお米を集め、会津短大生や市民ボランティアたちがにぎる「おにぎりセンター」を展開しました！その日食料が足りない避難所にお届けしました。



おにぎりセンターのプログラム (プレ:3月16日、3月17日~4月7日)



↑米とぎ



↑具材(塩など)かき混ぜる



↑にぎる



↑ダンボール班へ



↑ダンボールにつめる



↑振興局へ

- ・朝5:30に集合
(5:45~ミーティング)
- ・一日ボランティア
ア30人程度

ボランティアと支援の輪

いただいたもの

- お米：全国から計1トン
- おにぎりの具：梅干し、鮭、のり、わかめ、ごま、ふりかけ等

- ボランティアスタッフ登録数：約150名
- （会津短大を主とした会津若松市内の学生、美容師チーム、募集を見た一般の方々など）

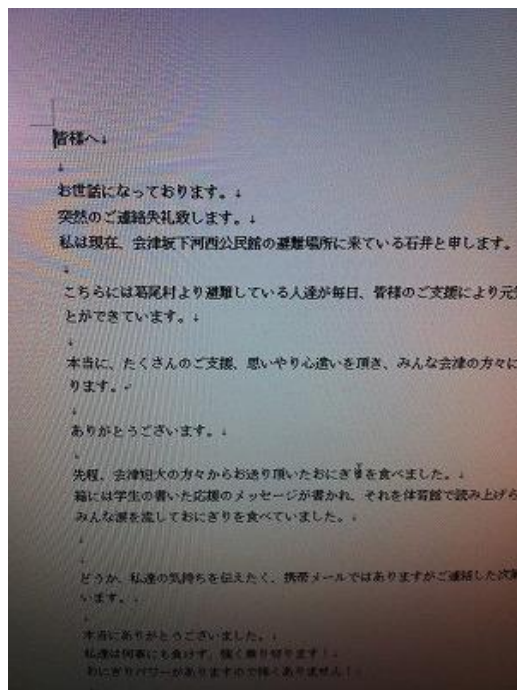
↑私が管理しました！

結果

23日間で26,000個ものおにぎりを供給しました！！

おにぎりが繋いだ“ありがとう”

- ある日、元気玉プロジェクト宛てに葛尾村の避難者さんからメールが届きました。みんなが励まされました！



避難所訪問（あいづ総合体育館）



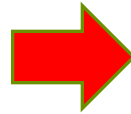
↑アコーディオン奏者の訪問



↑寄付のスーパーファミコン
←体育館への物資



南相馬・名取：関上



南相馬と名取：閑上

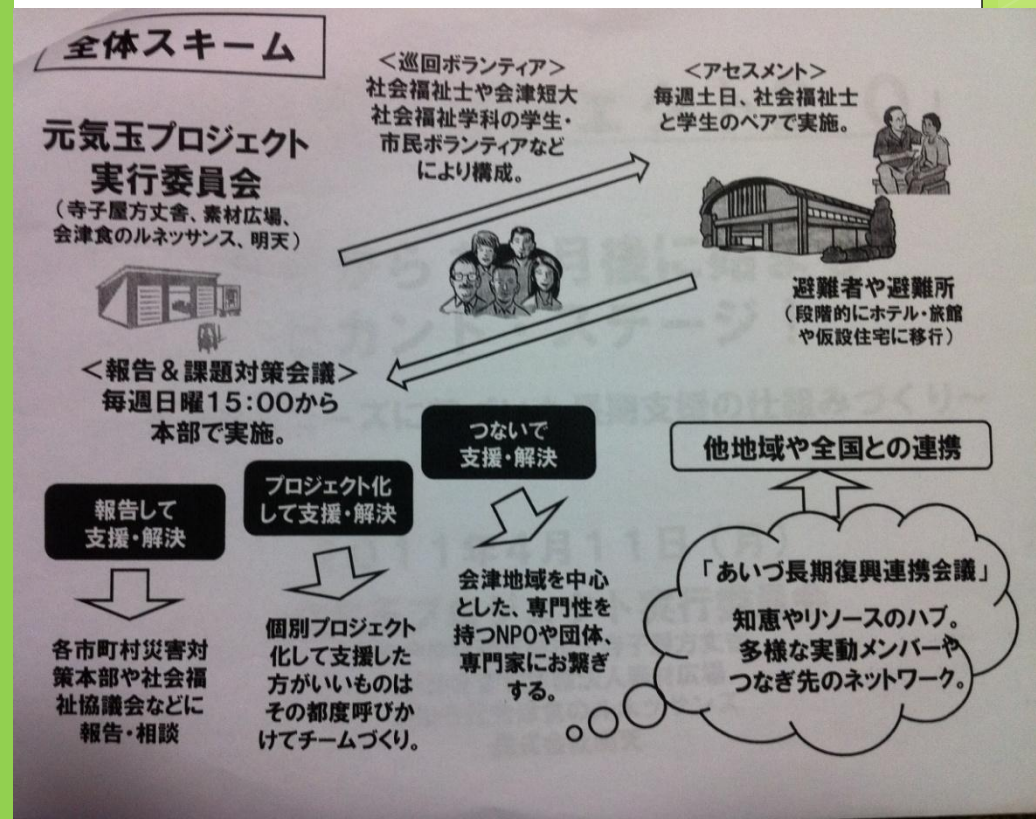
- おにぎりセンターに届いた物資を届けるという任務で南相馬市に行きました。



↑南相馬
←ゆりあげ

元気玉プロジェクト2.0

- 避難者のニーズや現場（避難所・ホテル・旅館・雇用促進住宅・仮設住宅など）の困りごとをきちんと調べて解決策とつなげる活動をベースに、避難者の安全な自立に向けた長期支援の仕組みづくりのセンター機能！



主な活動

- 1次避難所、2次避難所への個人・避難所アセスメント
- おもに福島県内の社会福祉士さんと会津短大が結成した学生連絡会の学生がペアを組んで、聞き取りを行っていただきました。
- 元気玉プロジェクト推進本部の看板作り



風評被害に対する活動(福島原発による。)

- 元気玉プロジェクト2.0と同時に素材広場の呼びかけで行われた福島県物産フェアを全国で風評被害を脱するために開催していただいた。
- 私が参加したのは、長野県安曇野市、埼玉県大宮市、新潟県新潟市です。

長野県安曇野市 (4月16日～4月17日)

安曇野市の直売所5か所で販売。



埼玉県大宮市 (4月20日～4月21日)

- 大宮イトーヨーカドーで開催。



新潟県新潟市

(4月30日、5月3日～5月5日、5月7日)

- 古町7番町で開催。



この大震災を通して感じたこと

- 仙台市で生まれ、仙台市で育ったのにもかかわらず、地域インタビューの時期により、大震災を福島の県でもかこうとわたり、大震災はランキレのころにボがでた。それにと指導され、最初はメールのメンバーからボランティアの活動ができた。行く方もいかなかった。温かい言葉もあつた。仙台に住む家族、顔をライライそのでた。友人を地域インタビューと感謝するしかないと感じている。

まとめ・感想

- 震災前と後では生活ががらりと変わった。モニターツアーのスタッフ、アンケート集計からボランティアメンバー管理、ほかの都市へ物販、避難所へアセスメントへ。組織と組織の連携の仕組みをリアルタイムで見せていただいた。インターン生中心の看板作りや物販をした。自分のやりたいことが形になることはとても大変だが、達成した時の前に一歩進む実感はこれからの自信にしていきたい。学生のうちに今回の経験によって、学生生活のリズムとの差を知ることができた。差を知ることによって社会への不安を少しは解消できると思う。差の存在を知らないで新社会人になっていたら、ギャップに戸惑うことになっただろう。震災によってボランティアの経験も大きなものだ。学生生活の中に戻ったが、行動することが前より足を止めるものがなくなった。すぐ行動に移すことの大切さも勉強できた。人とのつながりの強さも知ることができた。インターンシップに参加するという一歩出ただけで、いっぱいになるほど学びをすることができた。ほかの学生にもこの気持ちを知ってもらうことができれば、日本の将来が楽しみに感じる。